



第104号

本紙は、ピースポ
ト災害ボランティア
センターが、石巻市
内の仮設住宅に向け
て発行・配布する無
料情報紙です。
毎月10日、25日発行。

被災地から被災地へ

茨城県常総市豪雨災害緊急支援②

常総市に入り、一か
月が過ぎた。つい先日
まで、道路や公園に山
と積まれていた家財や
瓦礫は、行政と住民と
ボランティアの共同作
業であらかた集積所に
運ばれていった。市内
外に約30か所あった避
難所は、現在市内6か
所に統合され、避難者
数は約300人にまで
減った。10月16日から
ようやく、これまでの
おにぎりやパンの配食
からお弁当の提供に切
り替わり、近中にする
すべての避難所にリス
の布団が導入される予
定だ。一方で、盗難の
不安などの理由で、避
難所から浸水した自宅
に無理矢理帰られる方
も増えている。床と壁
を剥ぎ、水を含んだ断
熱材を除去し、どんど
ん広がるカビと消毒薬

もお風呂もない家の中
で、「寒い寒い」とダ
ウンジャケットに身を
包み、夜は座布団を並
べて寝るのだという在
宅避難の方々は、一人
や二人ではない。連休
を過ぎてボランティア
の数が激減し、床下の
泥かきや側溝清掃など
の作業が追いついてい
ない中で、堆積した土
砂が粉じんとなって舞
い、それによって体調
を崩す方も増えてき
た。被害の規模は東日
本大震災とは比べ物に
ならないが、生活レベ
ルという意味ではまだ
まだ課題が多い。
そんな中、私たちが
現在重点を置いている
のが、炊き出しの調
整、すなわち炊き出
しが出来る団体の申し
出(オーズ)と避難所
や在宅避難者が多い地

域とをマッチングする
活動である。地域の区
長さんやキーマンと繋
がり、被害状況や住民
の現状を知り、炊き出
しが出来るスペースを
開拓する。一方で、支
援者側が提供できるメ
ニューや食数、持って
いる資機材、調理や配
食に必要な設備を丁寧
にヒアリングし、条件
に合う避難所や地域を
選定する。区長さんの
負担にも配慮しながら
、事前告知の協力を
お願いすることも重要
だ。炊き出しにはでき
るだけ同行し、地域の
ニーズや課題をヒアリ
ングし、毎晩行われて
いるNPOの連絡会議
で共有する。これまで
に50件以上の炊き出し
を調整してきた。

先日、女川町の方々
が炊き出しに来てくれ
た。仮設住宅に暮らす
女性たちが何日もかけ
て、豆腐ハンバーグや
切干大根などのお惣菜
をせっせと作り、小分
けにして冷凍して、現
地で湯煎をするという
斬新な手法だった。高
齢で現地に来られない
方々にも調理に参加し
てもらい、その人たち
の分まで想いを届けに
来た」と代表の八木純
子さん。自分たちが避
難している頃食べたか
ったものを思い出して
、メニューを考えた
のだという。実際、カ
レーや豚汁などの炊き
出しが多い中で、普段
家庭で食べるようなお
惣菜の数々は大好評だ
った。しかもそれが仮
設暮らしの方々が手作
りしたものだとを知る
と、涙を浮かべる住民
の方の姿もあった。
想像力をフル活用し
ながら、常に相手の立
場や気持ちに配慮して
支援をするということ
は、実は容易ではない。
だからこそ、災害を経
験した方々にこそ出来
る支援や関わり方があ
るのだと思う。

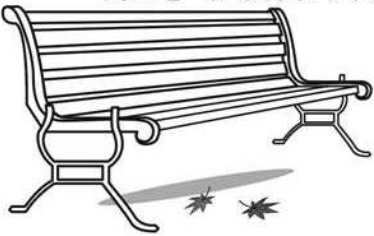
想いを馳せてくれる
だけでも、お茶っこの
話題にしてくれるだけ
でもいい。忘れないで、
いて欲しい。
ピースポート あきこ

11月のイベント情報

■かなんまつり

河南地区の新鮮な野菜や地場産品が勢揃い！趣味の作品展示や民俗芸能などのイベントも盛りだくさん。秋色の旭山を散策しながら、河南の秋を満喫してみませんか？

日時：10月31日(土) 9時～15時
場所：こもれひの降る丘「遊楽館」
問合せ：かなんまつり実行委員会事務局
(0225-72-2114)



■子どもの権利条約フォーラム2015 in 石巻

子どもが幸せに暮らせるようにするために、子どもとおとなが一緒になって考えるイベントです。「子どもの権利」に興味のある方ならだれでも三課ひきます。

日時：11月21日(土) 13時～17時
11月22日(日) 9時～16時
場所：石巻専修大学4号館、森口記念ホール
参加費：子ども(18歳未満) 無料
ユース(25歳未満) 1千円
おとな 2千円
問合せ：「子どもの権利条約フォーラム in石巻」事務局 (050-8635-3226)



石巻を誰もがお出かけできるいい町にしよう！ 移動支援 Rera(レラ)

1年3月から石巻地区の障害者や高齢者の中で支援が必要な方に限り、送迎ボランティアを行っています。対象は、自分でバスに乗ることができず、家族や友人など周りに送迎できる人がいない方、公共交通機関がない不便な場所や、経済的にタクシーを利用し続けることが困難な方です。2万人の利用者は延べ約20万人。利用者には、想定されるガソリン代

移動が困難な住民をスムーズに病院に送迎してくれるボランティアを募集しています。年齢は問いませんが、利用者には優しい安全運転に自信がある方は、週に1度からでも構わないので、まずはご相談ください。特定非営利活動法人移動支援 Rera

この活動はタクシーではなく本当に支援を必要としている方のためのボランティアです。公共交通機関を利用できる方、タクシーを利用できる経済力がある方にはご遠慮いただいています。最近、依頼があってもスタッフ不足で対応できずお断りするケースが増えています。1日平均70人が送迎されています。移動支援 Rera

Reraの村島弘子代表は、事業を続けるための寄付金も、運転してくれるボランティアの数も不足しています。ボランティアのほとんどが石巻地区の住民で、過去には78歳の方も協力してくださいました。運転なら力を貸せるとい方はぜひ連絡ください」と強く要望していました。利用者の半数は仮設住宅で暮らしている方です。ぜひ、石巻の困っている住民をあなたの運転で助けてあげ

子猫の里親募集

開成団地にお住まいの住民さんが、この夏に産まれた子猫たちの里親を探しています。

◎子猫は全部で6匹います。1匹でも2匹以上でもOKです。

◎去勢手術はしていません。

◎条件は「最後まで責任を持って世話できる方」「可愛がってくださる方」です。



◎引き取りに来てくださる方が希望ですが、地域によってはお届けも可能です。

興味・関心のある方は、左記に直接ご連絡ください。

【問合せ】090-2954-4122 (日野さん)

編集後記

「仮設きずな新聞」始まって以来、初めてA4サイズになってしまいました。これまでA3両面の紙面を埋めるのに大変と思ったことはほとんどないのですが、さすがに1か月間も離れていると難しいですね…。力不足でごめんなさい。

2011年4月に初めて石巻の地を踏んで以来、1か月以上石巻から離れたことはありませんでした。常総も、人は優しくいいところですが、ふとした時に石巻に帰りたいなあと思います。だって、サンマが食べたい！ カキが食べたい！ 新米が食べたい！ やっぱり食べ物って大事だなあと思うたび、いま自分に課せられた役目の重要性を感じます。常総の方々から栄養のある美味しいものが食べられるように、もう少しがんばります。(ピースポート あき)

■仮設きずな新聞とは… ピースポート災害ボランティアセンター (PBV) が2011年10月より、石巻市内の仮設住宅に向けて発行・配布する無料情報紙。コンセプトは「仮設住宅での暮らしに役立つ情報を届ける新聞」「ココロが元気になる新聞」。毎月10日、25日発行。毎号約6,000部発行。

■仮設きずな新聞は以下の場所でも手に入ります。
あがらいん、いしのまきキッチン、石巻市社会福祉協議会(各支所)、IRORI石巻、おがつ店こ屋街、おしかのれん街、かめ七呉服店、からころステーション、川の上・百俵館、道の駅「上品の郷」、まじやらいん(上釜)、宮城クリニック、復興大学、包括ケアセンター(開成)、ピースポートセンターいしのまき

■「仮設きずな新聞」編集部 所在地
ピースポートセンターいしのまき (10:00-18:00/日祝定休)
〒986-0824 石巻市立町1丁目5-21 (ことぶき町通り商店街内)
TEL:0225-25-5602 FAX:0225-25-5603 Email:kasetsukizuna@pbv.or.jp

■発行元 ピースポート災害ボランティアセンター (PBV)
■協力 開成仮診療所/キャンパス東北/震災ごころのケア・ネットワークみやぎ/街づくりまんぼう/復興大学/包括ケアセンター/真如苑救援ボランティア (SeRV)

■助成・協賛 認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム (JPF)

■編集長 岩元 暁子
■配布統括 田上 琢彦
■デザイン 矢野 瑛子 妙本 咲季
■編集委員 伊東 孝浩/菊谷 智大
高柳 伸康/西村真由美
西本健太郎/野津裕二郎
藤戸 孝俊